



■出席者／
武井龍治(包括) 佐藤裕子(副施設長・特養・ショート相談員)
高橋洋美(特養 ケアワーカー) 佐藤幸枝(デイケアワーカー) 半澤尚幸(施設長)
■進行／半澤尚幸

半澤「昨今の新聞等では、介護現場を取り巻く厳しい環境について報道されています。職員が少ないという現実があり、他の業種に比べ待遇が良くない、仕事が続かないなど、社会的な評価はまだまだ足りません。離職率も高いなかで、皆さん継続して仕事を続けていますが、本当のところはどうなのか。率直に意見として述べていただけたいいな。新聞記事で『特養半数職員定数割れる』という見出しが出ています。現実的にどうですか」

佐藤裕「ひまわり苑は、私が見た感じでは足りていると思いますが、病気や家族の事情で休む方が出てくると、ちょっと苦しい。人の命を扱う現場ですから、利用者」に負担をかけない体制が必要かなと感じています」

高橋「違う業務の職員にしわよせがきてしまいますよね。職員が足りないというより、適した時間に適した職員を適した場所に配置できない部分があります。今の時間であ

れば、利用者の方を食堂にお連れして、遅番2人で見守りの体制をとっていますが、1人所用で抜けてしまうと、1人で大勢の利用者さんをいつべんにみなければなりません。コールが来ても対応できなかつたり。厳しいかな、と思います」

佐藤裕「ひまわりグループだと、50人を30分くらいの間に食堂まで移動します。その時間帯に、一気に職員を集中して配置できるかという、難しい」

半澤「デイサービスの場合はどうでしょう」

佐藤幸「毎日利用者さんが変わるの、曜日によって偏ってしまいます。その時に足りないなあ、と感じる時はあります」

半澤「サービスの質という点ではどうですか。15年前介護保険が始まった頃とは質や量が全然違うと思います。利用者さんの要望はどんどん高くなっていますよね。サービスの質を確保するために人員の確保は必要です。例えば東京の施設のように、人が足りなかつたらショートステイをやめるといふ選択はせざるを得ないのでしょうか」

佐藤裕「ショートステイは施設の仕事中でも、一番大変な部分だと思います。高い介護の質が求められます。記事にあるようにショートステイをやめてすべて特養に移行すれば楽ですが、でも、それじゃダメなんです。ひまわり苑は幅広い地域の方に利用していただいている喜びがあります。続けたいですね」

半澤「いろんな現状がありますが、高橋さん、働いていて辞めたいなと思ったことはありませんか」

高橋「私はありません。利用者の方と接することが好きで楽しいですから。小柄なので大柄の方の介助は体に負担がきたり。

大変ですが辞めたいと思ったことはありません」

佐藤裕「この仕事をする人は、もともとお年寄りが好きで、やりたくて入ってきますよね。現場の人間関係や環境が、それを上回るほどイヤで辞めていくのが現実だと思います。給料はどっこいしょだと思いますし。」

ひまわり苑の人間関係は良いなと思っています」

高橋「フレンドリーでも必要なことはちゃんと伝える。分け隔てなく平等に指導していただける有難い環境だなと思っています」

武井「僕はここに来てまだ1年になりましたが環境はいいと思います」

半澤「待遇については、どうでしょうか。この業界、ゼロから始まる方もいらっしゃいます。その後の資格取得や現場での頑張りに応じて評価されます。就職の説明会に行くところ、いらつしゃった方々は、賃金が低い現実には慣れていないので、5年後10年後の評価はどれくらいですか?と聞いてきます。仕事に対する思いも大事ですが、見合った評価も大事だと思っています」

佐藤裕「自分が一生懸命頑張っているのを、上の人がちゃんと見ていてくれるというのは、すごく働き甲斐があります。希望をもって働けますよね。また、結婚とか出産、子育てとか、節目って絶対あると思うんです。私も今まで、この仕事どうしよう、と思う節目が何回もありました。その時にまわりの人が、じゃあどうしたら働いていけるのか、考えてくれました」

高橋「私は職場は変えたくない、すごく強く思ったんです。困ったことは素直に先輩方に聞くことができるし、適切なアドバイスをいただけて。安心して働けることはとても

も大きいですね」

半澤「仕事と家庭の両立。男性はどうですか」

武井「まだ結婚していませんが(笑)家庭があつたら、収入のことを考えなければいけないでしょうね。今後のためには、自分のスキルアップも必要です」

半澤「個人の高見を目指したいと思う気持ちに施設も応えていかなきゃいけないと思います。生活環境のサポートだけでなく、職員の資質向上を支援するサポートも当然必要でしょう。就職説明会でも研修サポートがどうなっているのか、よく聞かれます。職員が定着していくには、給料のほかにも支援体制などが必要。どれか一つではないのかな、という気がしますね」

高橋「相談できる体制があつて、スキルアップもできる職場になつたらいいですね」

佐藤幸「デイサービスは、家族の希望がどんどん変わっていくと思います。それに合うよう、職員の質を高めていくと同時に、職員自身楽しめる雰囲気づくりが大切なのではないでしょうか」

佐藤裕「子育て世帯の方へのサポートもあればいいですね。女性が働き続けるためには、保育所が必要です。高い保育所代も負担になります」

半澤「仕事だけに集中しているのが一番ですが、皆さん様々なものを抱えていますよね。いろんな生活を含めて「仕事」と考え、継続や定着につなげていきたいと思っています」

